

国立大学法人 **京** 都 大 学

2004年4月、全国の国立大学が文部科学省から独立し、「国立大学法人」へと変わった。京都大学も例外ではなく、国立大学法人となって半年以上が経った。しかし、一体何が変わったのか、そしてこれからどのように変わるのか、いまひとつピンとこない。そこで、読者アンケートと高等教育研究開発推進機構の林哲介教授へのインタビューによって、今後の京都大学を占ってみることにした。

(A-K)



法人化って何？

そもそも法人化ってなんだろう？ 国立大学法人と独立行政法人の違いって？
まずは「ハウジンカ」について調べてみました。

これまでの国立大学は文部科学省の内部組織であったため、大学が新しい取り組みをしようとするときなどに、いろいろと不都合なところがありました。例えば、これまでは、工学部に機械工学科や電気工学科を置くといったことは省令によって定められているので、学科名を変えるのにも省令の改正が必要でした。また、不要になった部署を新たに必要となる部署に替えるだけでも、そのつど文部科学省に要求して、総務省や財務省とも調整する必要がありました。また、お金の用途はかなり細かく決められていて、研究を進めていく途中で更にお金が必要になった場合でも、別に使う予定のお金から工面することもなかなかできません。

その点、欧米諸国においては、国立大学や州立大学でも法人格があって、日本

の国立大学に比べて自由な運営ができる形態になっているのが一般的です。

そこで、日本の国立大学についても、こうした不都合な点を解消し、優れた教育や特色ある研究に各大学が工夫を凝らせるようにと、国の組織から独立した「国

立大学法人」にすることとしました。

しかし一方で、基礎研究の縮小や利益につながる分野とそうでない分野との格差の拡大、授業料の値上げ、国からの大学への財政支出の削減、大学間の統合などが危惧されています。

独立行政法人と国立大学法人の違い

独立行政法人制度は、公共上必要な業務について、国が財政措置をしながらも、実際の運営は独立した法人に任せて、色々工夫をしながら、サービスの質をさらに良くし、なおかつ効率よく業務を行ってもらおうとする制度です。

この制度を国立大学に適用したものが、国立大学法人制度です。国が責任をもつべき高等教育や学術研究について、国が必要な財政措置を行いながら、法人化した各大学に実際の運営を任せることで、大学の活性化を図ろうとしています。

国立大学法人制度では、大学の自主性・自律性に配慮して、通常の独立行政法人制度では、担当の大臣が法人の長の任命や中期目標を決める仕組みとなっているのに対し、国立大学法人制度は、学長の任命や中期目標の作成に、大学の意見が十分反映される仕組みを導入しています。

はみだし
すてーじ

声に出して「ぎゃふん!!」と言っている人を初めて見てかなり驚きました。
→それはかなり驚きですね

(教・3 あろえ)
「ふんぎゃ!!」と言っている人はよくいますよね? ; 編)

アンケート結果

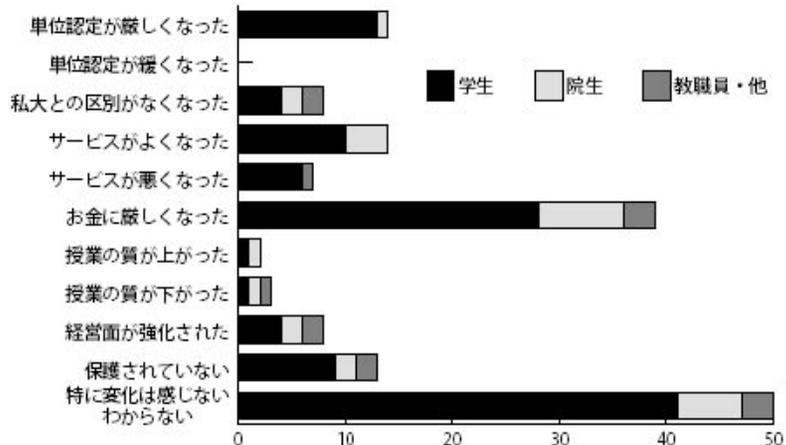
本誌7月号で法人化についてのアンケートをとりました。学生や教職員は法人化をどう思っているのでしょうか？

法人化に関して感じたことを教えてください。(複数回答可)

有効回答数126

アンケートの大半は学部生で、次に院生、教職員の順番でした。最も多かったのは「特に変化は感じない、わからない」で50票でした。学部生からはこの意見が多く、これまでと変わったと感じる部分はあまり見られないようです。

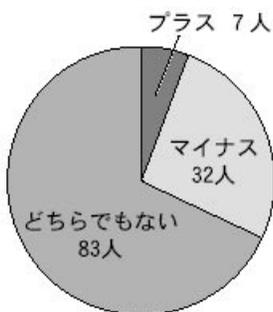
変化を感じたことで一番多かったのは「お金の厳しくなった」の項目で39票でした。この項目は院生からの意見が最も多く、中には研究費の縮小を危惧した意見も見られました。



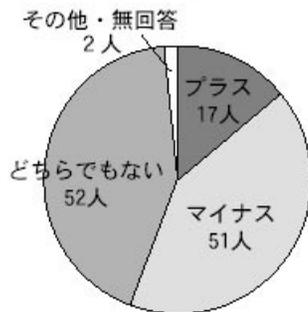
法人化はあなたにとって・京都大学にとって、プラス？ マイナス？

有効回答数122

自分にとって…



京都大学にとって…



自分への影響は「どちらでもない」が半数以上を占めました。上記の質問で「特に変化は感じない、わからない」が多かったことを考えると、これといった変化を感じる場所がないことを裏付ける結果となりました。

一方、京都大学への影響は「どちらでもない」と答えた人数と「マイナス」と答えた人数がほぼ同数で、自分への影響より、「マイナス」と答えた人が多くなっています。「基礎研究などの直接利益に結びつかないところが縮小される」「京大の自由の学風を失う」といったコメントも見られ、このような心配が京大にとってマイナスという意見に表れているようです。

法人化について 知りたいことを教えてください

- ▼何が変わったんですか？
- ▼結局学生にどんな影響があるのか
- ▼これまでと比べてどんなメリット・デメリットがあるのか
- ▼なんと言っても、今後の授業料額の動向である
- ▼学校の運営に企業が顔を出すということなのか？
- ▼学生はあまり変化を感じないが、研究者の皆さんはどう感じているのか

法人化について一言

- ▼国立大学にとって、あり方を見直す良い機会になると思う
- ▼結局どう変わるのかよくわからん
- ▼深く議論がされずに決定したのはいかがなものか…
- ▼会計が大変です
- ▼性急過ぎ。改革するにしても段階的に
- ▼京大らしさがなくならないようにしてほしい
- ▼考え直すべき

「法人化について一言」では、目に見えて変化の感じる場所は少ないながらも、それぞれ意見を持っているようです。また、「法人化について知りたいこと」では、多く目に付いたのがやはり授業料についてというものでした。

どちらの質問に対しても全体的に金銭面に関することが目立ち、その影響がどのように出てくるかを心配するものも見られました。

人間・環境学研究科 相関環境学専攻
高等教育研究開発推進センター
高等教育研究開発推進機構 副機構長

林 哲介 教授



法人化の問題点と、法人化による影響が
現在のどんな局面を迎えているか、教え
てください。

法人化の最大の問題点は、大学の教育・研究の改善というものの、行政改革が発点であったことです。財政を中心にした合理化に対して、国立大学を対象に入れるということだったわけです。そこからの問題として2つのポイントがあるといます。

ひとつは財政上の問題。目的として、国立大学の教職員を非公務員にして予算を削減するということと、財政負担に対してどのように民間活力を利用するかということがあったと思います。

しかし、国立大学の基本的な役割である、短期的な目標にとらわれない長期的で基礎的な研究を国が保障していかなければならない、という大学の主張はもともとで説得力があります。国の一般行政事業を単に法人化するのとは違うものにするべきだと。そこで国立大学法人化の法律が成立するときに、「国立大学の教育研究に対して十分な財政保障を必要がある」という付帯決議を取ったんです。その段階ではこれは非常に大きなものであったはずなんです。ところが、現実にはそうは進んでいない。

一般の行政法人だと行政改革の流れに添って、毎年の予算に対して一定の逓減率をかけてくるのですが、財務省は国立大学の運営交付金にも同じ逓減率をかけ

てくる方針を採ったんですね。交付金全体としては年約1%減ってくる。それが毎年かかってくるわけですから、すごいですよね。この点がやはりもっとも厳しい問題だと思います。京都大学のような規模の大きな大学では影響の表れ方がまだ小さいのですが、国内全体で年間減っていく予算は毎年国立大学が1つなくなるのと同じと言われています。

法人化によるメリットとしては、これまで国に従っていた予算運用が緩和されたことです。今までは人件費枠からは人件費、物件費枠からは物件費にしか当てられなかったものが、大学の判断で枠が決められるようになりました。確かに効率的な運用ができるようになったという面はありますが、重要な問題は基本的な予算が危機に瀕していることだと思います。そういったことを考慮すると全般的にはメリットよりもデメリットの方がはるかに大きいと感じます。

ふたつ目のポイントは法人化によって導入された中期目標・計画のことです。これは6年ごとに大学が中期目標を立案し、それを文科省が認可するというもので、それに従って教育・研究を中心とした大学を運営していくということになりました。そしてその中期目標の達成状況を文科省に置かれている国立大学評価委員会が評価し、その評価を資源配分

に反映させる、というフレームとなりました。

これまでの国立大学ではそういう発想はなかったわけで、特に京大のようにそれぞれの学部が独自に教育・研究を進めていく、恒常的、パーマネントな目的・目標を持っていることに対して、6年ごとに目標を定めて実行化していくというスタイルをどう実現するかが大きな問題です。

しかも文科省などからの言い方では数値目標のようなできるだけ評価しやすい目標にして、という流れなんです。「何年までにどういう成果をあげます」といったように、具体的で成果を計りやすいような目標を求める傾向があるんですね。ところが大学の研究というのは本来そういうものになじまないところがあって、特に基礎研究は教員や学生の個人的な興味関心に基づいて自由に進めるといった性格を持っているので、それと中期目標とどう擦り合わせていくのか、というところに問題があります。

京大は「自由の学風」と言われていますが、いい加減で改善すべきところはあるけれども、他大学と比べれば京都大学特有の良さがあって、それをちゃんと維持するのと、中期目標を定め、評価することと矛盾しないようにどうしていくのが課題なんです。これは下手したら大きなデメリットになってしまう、だから多くの人は「やっかいなことになってるな」という印象を持っていることは事実です。

ただ、部分的には今までのあいまいさの中で社会に説明できていないような改善すべき点はあったわけです。結果的にこういう制度によって強制されるのは不本意だけれども、これを機会に改善していくことが必要なことも事実です。そういうあたりが法人化による新しい局面ですね。

人類の使命を行う大学を 社会がどう見ていってくれるか

読者のアンケート結果についてどのように受け止められていますか？

アンケートでは京大にとって「マイナス」という学生が多いですが、教員から見れば「マイナス」はもっとも多いと思いますよ。学生にとっては、そんなに変化を感じるところは出てきていないと思います。

授業料については1, 2年のうちに急激に変わるということはないと思います。長期的に見たときに全体の財政状況の変化によって、授業料がまったく変化しないということはないと思いますが、国立大学協会を中心とした議論によってだんだん見えてくるのではないのでしょうか。

僕の受け止め方としては、基礎研究などの直接利益に結びつかないようなところが縮小され、京大の「自由の学風」が失われるのではないかという流れに対して、大学がどこまでがんばるかということが法人化の問題だと考えています。

※補足

授業料は年52万8000円を標準額として、それより1割高い金額(57万2880円)を上限に各大学が決めます。従って値上げも可能ですが、その場合はなぜ高くするのかの説明が必要となります。

今後研究費はどうなるのでしょうか？

基盤校費が年々減ってくるということで大変な問題になってくるでしょう。特に政府や財界の意向は「基盤的な校費は減らすけれども重点的に投資する」という傾向があります。これが問題で、結局は大規模な産学連携でやるところとか、国の施策としての基礎研究を行っているところなどに重点投資を行っているんで



はみだし
すてーじ

ごめん、はみだしすぎた。
⇒ここに載らなかった投稿が本当のはみだしではないのか！

す。そこには湯水のごとく予算がつき込まれる。でも全体の文教予算は変わっていませんから、重点投資が進めば進むほど、一般の研究を支える基盤的な予算が減っていくんです。これはここ十年ほど一貫している動きですが、法人化でこれが増え加えられる危機感がありますね。

そこで「研究予算は極力外部資金を取ってきなさい」と言われる。けれども科研費を除けば、取ってこれる分野は限られてくる。そこに対しては我々は非常に批判を持っているところです。競争的な資金を取ってくることを否定はしませんが、少なくとも最低限のいわば生活保障のような基盤的な研究費を維持していくことが、大学の全体としての機能を活性化していく、最も本質的なものであると理解しています。

欧米の大学の文教予算がGDPの約1%なのに比べて、日本ではその半分と言われています。しかし、そこを改善するのが基本でないといけないう、その趣旨が国立大学法人法案の付帯決議にも入っているはずなのに、そこがまったく抜けたまま、しかも減率がかかり、さらに重点投資が進む。そうすると基盤的な予算がずいぶん縮小される…。全国の大学が深刻に受け止めている問題です。

産学連携など企業との結びつきはどうなりますか？

これまでも産学連携をやってきたし、それに法人化によって産学連携を進める上での制約というのがなくなったので、大いに進むと思います。大学と企業が有機的な連携によって進めるべきところは進めることに対しては、大きな問題を含むということはないと思いますし、そういう枠が広がるのは健全なことだと思います。ただ、そのことによって研究目的や教育現場が振り回されないためにどう連携するのかが課題になってくるだろうと思います。

私大との距離は近づいたのでしょうか？

国立大学の評価とは別に、すべての大学に対して評価を行う制度が今年度から新たに導入されました。これは「認証評価」といい、7年ごとにすべての大学が文科省が認めた評価機関に申請して評価を受けなければならないというもので、それによって大学の性格分け、ランク分けなどが起こってくるでしょう。その意味で今まで国立といていた大学と私大との区別はつかなくなってくると思います。

しかし一方で、国立大学法人は法人ではあるけれども国立であって、国の財政で基本的に支えられているわけで、そうしている目的があり、それを各大学がどうアピールするかが課題です。これは人によって見方が違って、まだ統一されていません。受験生、社会、企業などからも大学をどう見ていくかというのが流動していきたくらいだと思います。

京都大学の場合、私立の大学と比べて学生に対する教職員の比率が高いのですが、その水準を維持していくべきだと我々は考えています。京都大学は私立大学ではできないような基礎的で大規模で長期的な視野に立った研究を行う大学であるべきだと。これはヨーロッパの伝統的な大学に対する位置づけと類似しますが、そういう機能を社会が必要なものと認めるのが本来のことだと思います。具体的な社会の要請やそれぞれの時代の必要性とは一歩離れて、純粹にアカデミックな研究を、大げさに言うと人類の使命を行うところとして、そこに国がお金を投じてそういう研究を維持し人材を育てる。そういう大学がいくつかなければならぬと思います。それを社会がどう見ていってくれるかによって大学の見方が決まると思います。

—ありがとうございました—

(工・2 タケ)
(と言ってみる；編)